

<第1日目>

○富山市郷土博物館で学芸員を務める浦畑奈津子氏による講演

演題「富岩運河と富山の町づくり」

富山市街地を流れる富岩（ふがん）運河の歴史と運河を活かした富山の町づくりについて講話をいただきました。

立山連峰からの急傾地である富山平野にある富山市は、旧神通川の蛇行によりその歴史は、水害を始めとする「水」との戦いでした。蛇行区間を短絡する水路を造り、それは現在の神通川本流となりました。

また、富山市街地は富山港と離れており、水運による物流の必要性が高まりました。しかし、神通川の流れが急であり水運に不適であったことから、効率の良い物流環境整備とそれを宣伝とした工場誘致を目指して富岩運河が建設されました。開削によって出た土砂で中心地の旧神通川の荒れ地を埋め立て、現在の富山市街地の町づくりが始まりました。

戦後、産業排水や生活排水により富岩運河の水質は悪化し、さらに物流環境の変化もあり、富岩運河を埋めてしまう構想が持ち上がりましたが、県知事の交代に伴い、運河を活かした街づくりが進められることになり、富岩運河環水公園や水上ラインのような現在の環境が整備されました。

「水との戦いから、水との共存へ」これは、私の勤務地の大垣市とも共通項が多くあり、住吉灯台から桑名までの水運や、水害対策、水の都と呼ばれる街づくりと比べながら興味深く拝聴することができました。



○全日本教職員連盟 事務局次長 島村暢之様による組織理解講話

当日は、同じ会場内で日教組、全教も会合を行うという三つ巴の中、職員団体の存在価値から三団体の違いを分かりやすく説明いただき、全日教連が教育施策に関わる影響力の大きさを理解することができました。

○情報交流

富山県では人事評価を給与に反映する動きがあるようです。ICTの普及率は高く全ての普通教室にプロジェクタや実物投影機が配置されているそうです。

和歌山県の高校はエアコン設置率100%だそうです。

○会員懇親会

富山市は高山市や飛騨市との繋がりが強く、商圈では岐阜県北部の多くの方が富山市へ買い物に出ます。また、会員の中にも、岐阜県内の大学出身者や、過去に講師として岐阜県に勤めたい方もおり、地元のローカルでマニアックな話題でも共通理解できるところがあり大いに盛り上がりました。

富山市街地から岐阜県境まで30分程ですが、岐阜県の南北の長さを実感します。



<第2日目>

○岩瀬の街並み視察

昨日の講話を基に、実際に岩瀬の街並みを視察しました。富山ライトレールで岩瀬まで20分、現地では富山はもとより全校でも有名な「満寿泉」ブランドの造り酒屋である舛田酒造店の社長の舛田 隆一郎様のガイドで街ブラを楽しみました。舛田様は岩瀬の街並みの再興を進めている第一人者でもあります。



また、舛田様のお計らいにより、酒造内の貯蔵庫の見学や試飲もさせていただきました。富山市の初任者研修では、地域を支える方から学ぶということで舛田酒造店を見学するそうです。昼間から飲ませていただくのは、参加した役得ということで……。私は日本酒には疎いのですが、飲み比べて見ると味や感触はまるで違い、おちょこを片手に楽しみました。



もちろん飲酒運転には自らを厳しく律して対応しております。あとは通販で取り寄せようと……。



最後に、富岩水上ラインを利用し、富山市街地へ戻りました。前日の浦畑先生の話を目で確かめることで、学びが深まりました。メインは中島閘門（こうもん）と呼ばれる閘門です。急流の神通川の代替路として整備されましたが、すぐ西を神通川は流れていますので傾きが変わらぬままになってしまいます。そこで、勾配を緩和して富岩運河は造られたのですがどうしても水位を調整する場

所が必要になり、閘門が造られました。パナマ運河と同じ方式で造られおり、乗船したまま水位の変化を体験することができました。自然の摂理を利用した水のエレベーターです。

〇さいごに

真面目な岐学組の会員は「そんなことを学びにわざわざ富山市へ行くんかい」と思うかもしれません。しかし、逆に言うと、確かに富山はいい所となのですが、こういう機会でもないと「富山へ行こう」となかなか思いません。岐阜県南部の者から見れば隣県なのに遠い地が富山なのです。また、ガイドブックにはない学びをすることができます。だから、観光気分で気楽に行ける部分もあるのです。

もう一つは、富山を始めとする他県の仲間と繋がりをもつことです。そして、コミュ力をつけることです。私が思うに教員は視野が狭いのが難点です。子供相手には通用するが、家族や友人以外の大人相手にフォーマル、インフォーマルの場でコミュニケーションできるでしょうか。

これだけやって、参加費は会員実費負担0円でした。